

実践報告

下仁田学習その4ー公民館活動ー

伝えてゆきたい「下仁田学」

Inheritance of history and culture in Shimonita ‘Shimonita-gaku’

赤岡 明*・並木 将貴**

Akira Akaoka, Masataka Namiki

下仁田学のスタート

私は、公民館活動の当時担当職員として、下仁田町の歴史や文化等の講座を里見哲夫氏に講演していただく事を考えていました。そんな中、下仁田ジオパークの会（当時：日本ジオパーク下仁田応援団長）会長の里見哲夫氏らにより、「下仁田学」を公開講座として、公民館事業で開催するよう提案があり、いろいろと模索しました。

その結果、下仁田学で里見哲夫氏らの知識をおかりし1人でも多くの下仁田町民方々等に下仁田町の良さを改めて見直していただき、下仁田町をさらに好きになってもらえればと考え、開催する事を決意しました。当時の社会教育主事・石井 明氏の指導協力を得ながら始まりました。

「下仁田学」は、下仁田町の名所や史跡、歴史や文化を学び、さらに自然史や町の現状と課題など講座を通して、下仁田町の魅力を広め、地域の活性化のために取り組むことのできる人材の育成を図ることを目的としてスタートしました。下仁田学を進めるのにあたり、実行委員会を創設し、会長に堀越教之氏（下仁田町文化財調査委員会委員長）、アドバイザーに里見哲夫氏・秋池 武氏（下仁田町歴史館

館長）・中村由克氏（下仁田町自然史館館長）に助言をいただきながら始めました。

初めての公民館事業で分からない事が多く、大変でしたが、皆様の指導をいただきながら無事「下仁田学」を開催する事ができました。ありがとうございました。

記念すべき下仁田学第1回は、里見哲夫氏に「下仁田町に生まれ」を講演（第1、2回）していただき、また、受講生を含め、町内外の方を対象に熊倉浩靖氏（現高崎商科大学特任教授）に「日本の中の下仁田のすごさ」を講演していただきました。第一



第1図

2020年12月26日受付。2021年2月17日受理。

* 下仁田町自然史館

** 下仁田町公民館



第2図



第3図

期では合計10回の講座を実施し、いろいろな方に講演していただき、素晴らしい内容で良い学習ができましたことを感謝申し上げます。

下仁田学をスタートして、良かったと思っております。

下仁田学を振り返る

「下仁田学」開催は、下仁田学実行委員会のアドバイザーである里見哲夫氏（前下仁田ジオパークの会会長）、中村由克氏、秋池 武氏及び下仁田学実行委員委員長（堀越教之氏）並びに実行委員の方々、さらには、下仁田自然学校のメンバーの方たちの助言協力のもと始めることができました。

2017（平成29）年8月27日（日）に記念すべく第1回目が開講され、現在まで全27回の講座を開催することができました。これもひとえに、講師をされた方々並びに下仁田学実行委員及びアドバイザーの方たちのご理解とご協力があったからこそ、有意義な講座を実現できたと実感しています。

下仁田学の開催当初においては、里見哲夫氏のアドバイザーとしてのお力添えと助言をいただきながら、5回もの講座において、多角的な角度よりご講演いただくことができました。なかでも、下仁田学第三期第4回目「高橋道齋 生誕300周年記念講座」（2018（平成30）年11月18日開催）（第3, 4図）では、冒頭「下仁田学」について触れながら、世界遺産



第4図

では「庭屋清太郎氏」、世界の記憶には「高橋道齋氏」、この二人は登録に関係した人物として紹介されました。「高橋道齋氏」は、「多胡碑を広めた下仁田の学者」であり、群馬県の教科書にも掲載され教育現場での学びでもあったことや多胡碑について丁寧に説明いただきながら語っていただくことができました。この時の講演参加者は、124人（内下仁田学受講申込者10人）でした。記念講座ということもあり、歴史館で開催中の企画展「高橋道齋展」とも連携しながら実施しました。また、事前準備では、里見哲夫氏のもとに幾度となく訪れ講演の内容やスライドの構成など打ち合せを重ねた印象深かった講座でした。

中村由克氏には、「考古学からみる下仁田のすごさ」や「日本の耳飾のルーツと下仁田町」と題し、

これまで3回ご講演をいただきました。先人たちを引き付ける下仁田の魅力について語っていただきながら、中央構造線がとおる町としての説明と発見された石器具の紹介をされました（第5図）。これらの中で、興味深い話をされており、特に、下仁田学第四期第3回目「日本の耳飾のルーツと下仁田町」（令和2年12月13日開催）（第6図）でのご講演では、下鎌田遺跡にて出土された「下仁田町指定重要文化財 玦状耳飾」について語られた内容です。



第5図

あることが判明したことや下仁田町が日本列島における耳飾の歴史や石材流通の通過点であり石器具の製造箇所であったり、重要な役割を担っていたことがわかりました。今後の研究により新しい発見と成果に期待が膨らみます。

秋池 武氏には、「下仁田町の風穴とは」と「荒船風穴の役割と新たな発見」と題し、「下仁田の荒船風穴」をテーマに3回にわたりご講演をいただきました（第7、8図）。エコな自然エネルギーの冷風を利用した荒船風穴の歴史と冷風発生メカニズムなど説明いただきながら見学するとともに冷風体験



第7図



第6図

出土された耳飾は、上信越自動車道下仁田IC建設に発掘され、縄文時代早期末～前期始めて7000年前であることと、この耳飾の石材成分分析を行い、2020年に海外産の可能性があると発表され、さらに蛍光X線分析によって海外産の「ネフライト」で



第8図

もでき、終始和やかに学習ができました。今後、荒船風穴経営母体である春秋館の調査により、新たな役割や重要性の発見が期待されます。

下仁田自然学校の保科 裕氏には「下仁田の山々の生いたち」と題し、これまで2回講演いただきました。下仁田町の“根なし山(クリッペ)”について“世界の根なし山”も例にあげながら解説していただき(第9, 10図)、青岩の形成、跡倉層の移動、谷川による浸食、現在の地形など、下仁田地域が、地質学的に大変興味深い場所であることがわかる講座でした。日本の根なし山は、単独であるものが多い。群集していて、すべり面断層面等よく分かるところは、他にも無く、世界の根なし山(ヨーロッパアルプスのマッターホルン、アメリカ北部のチーフマウンテン)を見ても下仁田の根なし山に勝るもの

はない。また、御岳はチーフマウンテンにも似ているところがあるとの事から、地質学としても重要であることがわかる講座でした。

原田 喬氏(元下仁田町文化財調査委員副委員長)には、「こんにやくと水車」と題し、これまで2回講演いただき、下仁田町の地場産業でもあるこんにやく製粉業には欠かせない水車について解説していただきました。(第11, 12図)こんにやく製粉工場(旧田島屋)では、水車(タービン水車)の仕組みや構造などを中心にお話しいただき水車にも使用目的の違いから複数種類があることを知ることができました。また、古いタービン水車には輸入されたものもあり、水車を動力源として産業の中心を担っていたことがうかがえ、改めて近代産業の始まりを感じることができました。



第9図



第11図



第10図



第12図

ときには、下仁田ジオパークの会の協力のもと、「ウォーキング・DE・ジオ」としてジオサイトウォーキングツアーを共催で開催しました。中之嶽神社と石門めぐりと「幕末の下仁田を歩く」を実施し、「中之嶽神社と石門めぐり」（第三期第1回令和元年10月27日開催）（第13、14図）では、講師に菅原久誠氏（群馬県立自然史博物館学芸員）を講師に、フィールドにて実施。「インタープリテーション」の説明と石門群道中で生息している植物や山肌の岩石について解説していただきました。

さらに「ウォルター・ウェストン」さんが1912年に金鶏山登頂にザイルを使ったことから妙義山は近代登山の発祥の地とされ、また、「根本清三」さんは、菱矢旅館の旦那でガイドをしており、ウェストンさんからザイルの手ほどきを受けるなどし、金鶏

山登頂などに貢献した人物だったと紹介されました。

「幕末の下仁田を歩く」（第三期第2回令和元年11月9日開催）（第15、16図）では、大河原順次郎氏（下仁田ジオパークの会副会長）を講師に開催しました。元治元年（1864）に起きた下仁田戦争に関する史跡を中心としたコースでした。水戸天狗党と幕府軍高崎藩士との間で戦いのあった下仁田だけでなく、時代背景（幕末の混沌とした時代）、町の形成（関東山地の北の縁、河川や峠）、下仁田の発展（下仁田道、砥石や米の物流）などをポイントに解説をいただき、太古と近代歴史のロマンを感じながらの講座となりました。



第13図



第15図



第14図



第16図

また、大河原順次郎氏には、日本で最初の近代製鉄「下仁田町指定遺跡 中小坂鉄山・製鉄所跡」（第

四期第2回令和2年11月13日開催）（第17、18図）をテーマに、中小坂鉄山跡地で案内をしていただきました。資料と写真を交えながら、幕末から昭和までの中小坂鉄山の歴史を丁寧に説明していただき焙焼炉跡、クラッシャー跡、煙突の配管跡なども見学。また、希望者は、石井利子氏（中小坂鉄山研究会）

の案内で、トロッコ道と第二坑を見学することができました。

最後に、沢山の講師及び関係者の方々のご協力のもと「下仁田学」が開催できたことを深く感謝申し上げますとともに、今後の「下仁田学」の飛躍に対しこれからもよろしくお願いいたします。



第17図



第18図

第1表 下仁田学 第一期～第四期 講座一覧

No.	期別	回	日時	講座と講師	所属職名	講座内容	会場 (参加人数)
1	第一期 二〇一七 二〇一八	1	平成29年 8月27日(日)	「下仁田町に生まれ」 里見哲夫	日本ジオパーク下仁田 応援団長	下仁田町の現状と歴史を解説	下仁田町公民館 (15人)
2		2	平成29年 9月3日(日)	「心の窓をあけて大掃除！ ‘きっと忘れていた大切なもの が見つかります’」 佐久間レイ	声優・歌手・脚本家	テーマにふれたトーク&ソング	下仁田町文化ホール (13人)
3		3	平成29年 10月22日(日)	「考古学から見る下仁田のす ごさ」 中村由克	下仁田町自然史館館長	先人たちを引き付けた大地の魅力と中 央構造線がとおる町下仁田を解説	下仁田町公民館 (13人)
4		4	平成29年 11月19日(日)	「日本の中の下仁田の価値」 熊倉浩靖	群馬県立女子大学教授	下仁田町の地域資産と価値を語る	下仁田町公民館 (50人)
5		5	平成29年 12月17日(日)	「下仁田ネギとこんにやくに ついて」 里見哲夫	日本ジオパーク下仁田 応援団長	下仁田ネギの由来とコニャクの歴史を 解説	下仁田町公民館 (12人)
6		6	平成30年 1月21日(日)	「下仁田町の課題と施策」 岩井 収	地域創生課長	下仁田町の自然、観光、特産の紹介と 町の計画実現に向けた施策と課題を説 明	下仁田町公民館 (15人)
7		7	平成30年 2月18日(日)	「下仁田の山々の生いたち」 保科 裕	下仁田自然学校	下仁田の根なし山(クリッペ)による青 岩の形成や跡倉層移動などを解説	下仁田町自然史館・ 跡倉クリッペ (12人)
8		8	平成30年 3月11日(日)	「中世の下仁田」 築瀬大輔	群馬県立歴史博物館学 芸係長	資料で読み解き、武田信玄の進行など 資料を交えながら解説	下仁田町公民館 (12人)
9		9	平成30年 4月22日(日)	「こんにやくと水車の利用」 原田 喬	下仁田町文化財調査委 員副委員長	地場産業であるこんにやく製粉業の原 動力であった水車について資料を交え て解説	下仁田町公民館 (11人)
10		10	平成30年 5月20日(日)	「下仁田町の風穴とは」 秋池 武	下仁田町歴史館館長	自然エネルギーの冷風を利用した荒船 風穴の歴史と冷風発生メカニズムを 解説	荒船風穴・下仁田町 歴史館 (10人)

下仁田学習その4ー公民館活動ー 伝えてゆきたい「下仁田学」

No.	期別	回	日 時	講座と講師	所属職名	講座内容	会場 (参加人数)
11	第二期 二〇二〇年 八月二〇日	1	平成30年 9月2日(日)	「ハーブ& トーク愛と優しさ で人は育つ」 永山友美子	アイリッシュハーブ奏 者・オベレッタ作家	ユーモアを交えながら軽快なトークと 聴きなじみのある楽曲をハーブにより 演奏	下仁田町文化ホール (6人)
12		2	平成30年 9月30日(日)	「下仁田町に生まれ」 里見哲夫	下仁田ジオパークの会 会長	下仁田町の現状と歴史を解説	下仁田町公民館 (7人)
13		3	平成30年 10月21日(日)	「考古学から見る下仁田のす ごさ」 中村由克	下仁田町自然史館館長	先人たちを引き付けた大地の魅力と中 央構造線がとおる町下仁田を解説	下仁田町公民館 (14人)
14		4	平成30年 11月18日(日)	「高橋道斎生誕300年記念講 演」 里見哲夫	下仁田ジオパークの会 会長	「多胡碑を広めた下仁田の学者」高橋道 斎の偉業や生い立ち、史跡や遺品を紹 介	下仁田町文化ホール (126人)
15		5	平成30年 12月16日(日)	「下仁田ネギとこんにゃくにつ いて」 里見哲夫	下仁田ジオパークの会 会長	下仁田ネギの由来とコニャクの歴史を 解説	下仁田町公民館 (13人)
16		6	平成31年 1月27日(日)	「下仁田町の課題と施策」 猪野 馨	地域創生課長	下仁田町の自然、観光、特産の紹介と 町の計画実現に向けた施策と課題を説 明	下仁田町公民館 (15人)
17		7	平成31年 2月24日(日)	「下仁田の山々の生いたち」 保科 裕	下仁田自然学校	下仁田の根なし山(クリッペ)による青 岩の形成や跡倉層移動などを解説	下仁田町自然史館・ 跡倉クリッペ (8人)
18		8	平成31年 3月10日(日)	「中世の下仁田①」 築瀬大輔	群馬県立女子大学群馬 学センター准教授	「武田信玄の進入路を考える」をテーマ に上野国下仁田の地への踏み入れ群馬 県侵入による関東進軍について解説	下仁田町公民館 (19人)
19		9	平成31年 4月21日(日)	「こんにゃくと水車の利用」 原田 喬	下仁田町文化財調査委 員副委員長	地場産業であるこんにゃく製粉業の原 動力であった水車について資料を交え て解説	下仁田町公民館 (12人)
20		10	令和元年 5月26日(日)	「下仁田町の風穴とは」 秋池 武	下仁田町歴史館館長	自然エネルギーの冷風を利用した荒船 風穴の歴史と冷風発生メカニズムを 解説	荒船風穴・下仁田町 歴史館 (6人)
21	第三期 二〇二〇年 九月二〇日	1	令和元年 10月27日(日)	「中之嶽神社と石門めぐり」 菅原久誠	群馬県立自然史博物館 学芸員	妙義山をフィールドとしたインター リレーション入門の説明と中之嶽神社 と石門めぐり【ウォーキング・DE・ジ オ】	妙義山石門群と中之 嶽神社 (7人)
22		2	令和元年 11月9日(土)	「幕末の下仁田を歩く」 大河原順次郎	下仁田ジオパークの会 副会長	下仁田戦争に関する史跡を中心とし た名所巡りと下仁田町の形成や下仁田 の発展を解説【ウォーキング・DE・ジ オ】	下仁田町内 (18人)
23		3	令和元年 12月15日(日)	「天明三年(1783)浅間山大噴 火と下仁田町」 古澤勝幸	群馬県企画部世界遺産 課	浅間山大噴火による災害と下仁田町に 与えた影響や女流俳人「羽鳥一紅」が記 した「文月浅間記」を紹介	下仁田町公民館 (24人)
24		4	令和2年 2月2日(日)	「中世の下仁田②」 築瀬大輔	群馬県立女子大学群馬 学センター准教授	武田信玄が越山し関東に侵攻した背景 を資料交えて解説	下仁田町公民館 (20人)
25		5	令和2年 3月22日(日)	「日本の耳飾のルーツと下仁 田町」 中村由克	下仁田町自然史館館長		中止
26		6	令和2年 4月26日(日)	「中小坂鉄山の発見」 原田 喬	下仁田町文化財調査副 委員長		中止
27		7	令和2年 5月24日(日)	「荒船風穴の役割」 秋池 武	下仁田町歴史館館長		中止
28	第四期 二〇二〇年 十一月	1	令和2年 11月1日(日)	「荒船風穴の役割と新たな発 見」 秋池 武	下仁田町歴史館館長	荒船風穴の地形の特徴と周辺の山並み を紹介と冷風を利用した荒船風穴の歴 史と冷風発生メカニズムを解説	荒船風穴・下仁田町 歴史館 (24人)
29		2	令和2年 11月5日(日)	「中小坂鉄山の発見」 大河原順次郎	中小坂鉄山研究会	幕末から昭和までの中小坂鉄山の歴史 を解説	中小坂鉄山製鉄所跡 (32人)
30		3	令和2年 12月13日(日)	「日本の耳飾のルーツと下仁 田町」 中村由克	下仁田町自然史館館長	下鎌田遺跡より出土された「けつ状耳 飾」について、発見の経緯と研究によ り判明したことを解説	下仁田町公民館 (24人)

